

## 平成29年度 学校評価アンケート分析(保護者向け)

H30.3

※数字は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的な割合の合計。( )内は昨年と比較した割合の差。80%以上を高評価、70%未満を低評価と位置づけている。同%の場合は、「そう思う」の割合の高い順に並べている。

高評価順 (生徒)	高評価順 (保護者)
1. ⑳施設・設備の安全管理・・・96%(-2%)	1. ⑳施設・設備の安全管理・・・100%(+1%)
2. ⑲環境の整理・美化・・・94%(+0%)	2. ⑲環境の整理・美化・・・100%(+1%)
3. ⑮規範意識・・・89%(-5%)	3. ⑱学校行事の工夫・・・98%(+2%)
4. ⑦深プロ目標の理解・・・88%(-9%)	4. ⑬友だちと仲良く・・・98%(+1%)
5. ③教職員の連携・・・88%(-2%)	5. ③教職員の連携・・・98%(+3%)
6. ④わかりやすい授業・・・88%(-8%)	6. ⑨深プロのテーマ設定・指導・・・98%(+7%)
7. ⑬友だちと仲良く・・・87%(-6%)	7. ㉒学校行事への参加・・・97%(+6%)
8. ⑱学校行事の工夫・参加・・・87%(-1%)	8. ㉑学校からの情報発信・・・96%(+7%)
9. ㉑学校からの情報発信・・・86%(-8%)	9. ①教育目標の理解・・・96%(+2%)
10. ⑫一人一人の子どもの尊重・・・85%(-3%)	10. ⑰子どもの安全と事故防止・・・96%(-1%)
11. ⑧深プロへの意欲・・・84%(-5%)	11. ⑦深プロ方針の理解・・・96%(+7%)
12. ②充実した学校生活・・・83%(-11%)	12. ⑫一人一人の子どもの尊重・・・96%(+2%)
13. ⑯いじめや問題への対応・・・83%(-11%)	13. ⑯いじめや問題への対応・・・96%(+1%)
14. ⑥意欲的な学習態度・・・82%(-4%)	14. ⑮規範意識・・・96%(+0%)
15. ⑭生徒理解・・・81%(-50%)	15. ⑩心の教育の充実・・・95%(+4%)
16. ⑨深プロの魅力・・・80%(-7%)	16. ②充実した学校生活・・・94%(-2%)
17. ⑩思いやり・感謝の心・・・77%(-7%)	17. ㉓教師と保護者の連携・・・94%(+0%)
18. ⑪あいさつの励行・・・76%(-6%)	18. ⑭生徒理解・・・94%(+0%)
19. ㉔家庭学習・・・76%(+21%)	19. ㉕夢・希望・・・94%(+10%)
20. ⑤知識・技能の活用・・・75%(-5%)	20. ⑧深プロへの意欲・・・93%(+7%)
22. ㉒文書伝達・・・73%(-11%)	21. ⑥意欲的な学習態度・・・90%(+2)
21. ㉕夢・希望・・・70%(+5%)	22. ⑪あいさつの励行・・・86%(-2%)
23. ⑰健康づくり・・・68%(-5%)	23. ⑤知識・技能の活用・・・85%(+9%)
24. ①教育目標の理解・・・56%(-1%)	24. ㉔家庭学習・・・80%(+10%)
25. ㉓自尊感情・・・52%(-8%)	25. ④授業内容の理解・・・76%(-1%)

### 1. 全体的な傾向

#### ◎生徒の評価

昨年90%以上の評価が10項目あったが、本年度は2項目に減り、1項目しかなかった70%台の項目が6個に増えた。全体的には、高評価の項目が減少している。特に⑯「いじめや問題への対応」と㉒「文書伝達」が共に-11%と大きく評価を落としている。逆に、数年連続して低評価だった㉔「家庭学習」が前年度比21%増となっている。

⑰「健康づくり」は毎年評価を落とし続け、とうとう本年度は、70%を切ってしまった。①「教育目標の理解」については、あるクラスだけ突出して評価が高かったのを考えると、質問項目を分かりやすくする必要がある。㉓「自尊感情」は、例年低評価で下学年に比べて上学年

の方が評価が低い。

### ◎保護者の評価

昨年 100%の項目はなかったが、本年度は学校環境の⑱「環境の整理・美化」⑳「施設・設備の安全管理」の2項目あった。玄関前のプランターや花壇の整備など日々の緑化活動が大きく評価されたものであろう。また、昨年90%以上が16項目あったが、本年度は21項目と5項目増えた。特に、家庭学習の項目は1昨年65%、昨年70%、今年10%増え80%となった。全項目にわたり、例年以上の高評価となっている。

#### 高評価順（教職員）

1. ⑱学校行事の工夫・・・100%(+6%)
2. ⑯いじめや問題への対応・・・100%(+0%)
3. ⑳施設・設備の安全管理・・・97%(-3%)
4. ⑭生徒理解・・・97%(+0%)
5. ⑰子どもの安全と事故防止・・・97%(+3%)
6. ④授業づくり・・・97%(+4%)
7. ㉑学校からの情報発信・・・97%(+4%)
8. ⑲環境の整理・美化・・・94%(+0%)
9. ③教職員の連携・・・94%(+3%)
10. ①教育目標の理解・・・94%(-6%)
11. ②充実した学校生活・・・94%(+0%)
12. ⑧深プロへの意欲・・・94%(+6%)
13. ㉒学校行事への参加・・・92%(+9%)
14. ⑮規範意識・・・92%(-5%)
15. ⑬友だちと仲良く・・・91%(-6%)
16. ⑫一人一人の子どもの尊重・・・89%(-2%)
17. ⑤意欲的な学習態度・・・89%(+2%)
18. ⑥知識・技能の活用・・・89%(+6%)
19. ㉔家庭学習・・・88%(-5%)
20. ⑦深プロ方針の理解・・・86%(+2%)
21. ⑩心の教育の充実・・・86%(-11%)
22. ㉓教師と保護者の連携・・・85%(-9%)
  
23. ⑨深プロのテーマ設定・指導・・・73%(-15%)
24. ⑵夢・希望・・・71%(-4%)
25. ⑪あいさつの励行・・・50%(-13%)

### ◎教職員の評価

80%以上の項目が22項目と例年と変わりなく、総じて高評価である。⑪「あいさつの励行」は、ここ数年最下位の低評価が続いている。㉒「夢・希望」も同様に毎年低評価である。本年度は、⑨「深プロのテーマ設定・指導」が評価を大きく落としている。他に評価が下がった項目としては、⑩「心の教育の充実」、㉓「教師と保護者の連携」で昨年に比べて約10%減少している。大きく増加している項目としては、㉑「学校行事への参加」がある。

#### 2. 教科指導について

④「分かる授業」については、88%の生徒がわかりやすいと評価（そう思う30%）し、先生方も97%が丁寧な授業づくりに努めていると高く評価している。一方、保護者の評価は、76%が授業内容を理解できていると答えている（そう思う16%、どちらかといえばそう思う60%）が、残り24%の内22%は「どちらかといえばそう思わない」、2%は「そう思わない」と答えている。生徒の「そう思う」という割合を高めるための学習内容や教材を含めた授業の工夫改善を図る必要がある。また、保護者に対しては授業参観など授業を公開することで、その評価を高める工夫が必要である。

#### ◎4-2（記述内容から）

授業が分からない理由として大別すると

2つにわけられる。

1つは、予復習ができていない。次は、授業の進度が早いから理解できない、分からない。家庭学習の習慣化と学習内容（教科書・教材等）の見直しが必要ではないか。

⑤「知識・技能の活用」は昨年新たにつくった項目で、学力の3要素の2番目の「知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力」が育っているかを評価するものであるが生徒・保護者にとっては、答えにくい部分があり、低評価だった。

⑥「意欲的な学習態度」では、生徒の学習意欲は各学年共に「そう思う」が20～30%台で評価が低いと感じた。

#### 3. 深プロについて

⑦⑧⑨の深プロの項目については、生徒・保護者・教職員ともに、ほとんど80%以上の高い評価を得ている。その中で唯一70%台の項目が教職員の⑨「深学科プログラムのテーマ設定や指導は適切だと思うか」である。「そう思わない、どちらかといえばそう思わない」と答えた先生が9人いるということは、テーマ設定や指導計画などを見直す時期に来ているのではないか。

#### 【成果】

- (1) 生徒の評価項目に着目してみると、80%以上が昨年20項目であったが、本年度は16項目となり4項目減っている。ほとんどの項目で評価が低くなっているのが本年度の特徴である。その中で大きく増加しているのが、⑭「家庭学習」の項目である。昨年までは、毎年最下位の評価であり、その対策に先生方もかなり苦労されていた。家庭学習の習慣が根付いた結果であろうか？宿題が易しく、少なくなったのか？保護者の評価も昨年より10%上がっている。
- (2) 生徒・保護者・教職員ともに「⑫一人ひとりの子どもの尊重⑬生徒理解⑭いじめや問題への対応」の高評価から、学校や先生方に対する生徒・保護者の信頼感が大きいと言える。また、先生方も一人ひとりの生徒への対応に関して、丁寧に取り組んでいることが分かる。さらに報告・連絡・相談を徹底し、職員間の情報の共有化を図り、学校と家庭が連携して生徒の成長を見守っていききたいものである。

#### 【課題】

- (1) ⑪「挨拶の励行」については、教職員の評価は50%と毎年最下位の評価である。生徒は86%、保護者は76%と教職員と比べるとやや高い。学校内でも明るく大きな声で挨拶している生徒はとても少ないように感じる。挨拶を、コミュニケーションの第一歩と考えれば、明るく元気な声が飛び交う学校であって欲しい。そのための方策としては、授業の始・終業時や登下校時の挨拶を自発的に出来るような取り組みが必要である。生徒会が毎日挨拶運動に取り組んでいるが、さらに指導の手を入れるともっと挨拶運動自体が活発になるのではないかと期待している。  
学習面や生活面にも同じことが言えるが、自主・自発的な子どもの取り組みだけでは上手くいかない場合もあるので、適宜先生方の指導・助言で成果を出せればと思う。
- (2) 毎年低評価の項目が⑮「夢や希望 65%(-2%)」である。1年生が69%、2年生が75%、3年生が66%である。将来の夢や希望を持っていない生徒が3割もいる現状は大きな課題である。学校行事や授業等で、教職員が今以上に夢や希望を語りかけるとともに、家庭でも夢や希望を話題にするような働きかけが大事である。
- (3) 生徒の項目⑯「健康づくり」は、毎年のように評価が下がり、本年度はとうとう68%になってしまった。「すすんでスポーツしたり、好き嫌いなく食べたり」という、運動と食育が健康な身体づくりを支えるような、子どもたちの取り組みを学校全体で計画する必要がある。(運動：クラスマッチ、持久走大会、競歩会など)(食育：食育の意義、食事のマナー、他教科・道徳との連携、健康相談など)
- (4) 生徒の評価で特に低いのが⑰「自尊感情(52%)」で、1年生が60%、2年生が45%、3年生が50%となっている。その中で、「そう思う」は13%、「そう思わない」が20%という割合である。各学年共に5人に1人が自分のことを好きではないと答えている。学校生活や教科・道徳、深プロの時間の中で、子どもの活躍の場面を設け、常に「認め、褒め、励まし」「承認」していけば、子どもたちも少しずつ自信を持つようになるのではないかと期待している。全校集会や授業などでの「返事」も大きな声でできるようになり、さらに発表の場でも相手にきちんと伝えることができるようになるのではないかと期待している。